ります

● 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付け をおこなってください。

● ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への 危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大 きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定 される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する 重要な内容ですので、必ず守ってください。

:人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。 人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が 想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

○ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁 止)が描かれています。

■ 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるもので す。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラ グをコンセントから抜いてください)が描かれています。

したり修理・改造をしないこと 分解・修理・ 改造禁止

● 交流 100V 以外で

ります

ないこと

埋込禁止

取付注意

は使用しないこと

事をおこなうこと

火災などの原因になります

火災・感電の原因にな ≪

● 修理技術者以外の人は、絶対に分解 発火・感電したり、異常動作してけがをす るおそれがあります

● レンジフードの壁への埋め込みはし

漏電した場合、発火するおそれがあります

排気工事をされる場合は、建築基準

法(同施行令)および消防法などの

関連法規に従って法的有資格者が工

取付注意

なうこと 取付注意 誤った配線工事は感電や火災の原因になります ● メタルラス張り、ワイヤラス張り、ま たは金属板張りの木造の造営物に金属 製ダクトが貫通する場合、金属製ダク トとメタルラス、ワイヤラス、金属板 とが電気的に接触しないよう取り付け

♠ 警告

● 配線工事は電気設備技術基準や内線規

程に従って法的有資格者が工事をおこ

漏電した場合、発火したり感電するおそれがあ

● レンジフードと排気ダクト等は、可燃

料を使用して可燃物を覆うこと

火災などの原因になります

物との間を 10cm 以上離すか、不燃材

詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

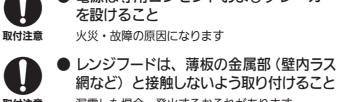
取付注意

アースを

取り付ける

取付注意

● 電源は専用コンセントおよびブレーカー を設けること 火災・故障の原因になります



漏電した場合、発火するおそれがあります アースを確実に取り付けること 故障や漏電のときに感電するおそれがあります アースの取り付けは販売店にご相談ください

自然排気型のストーブを使用するときは、 空気の取入口(給気口)により十分給気 される配慮をすること。 排気ガスが室内に逆流し、 一酸化炭素中毒を起こす おそれがあります

注意

● 浴室など湿気の多い場所では絶 対に使わないこと(浴室用換気 扇をお使いください) 使用禁止 取付注意 感電および故障の原因になります

● 周囲温度が 40℃以上になる

● 運転中は、指や

けがをするおそれ

ないこと

があります

物を絶対に入れ 🚙

● 取り扱いの際は、必ず

するおそれがあります

222

厚手の手袋をすること

鋼板の切り口や角でけがを



● 部品の取り付けは 確実におこなうこと 落下によりけがをする おそれがあります

レンジフードは約 36kg の || | |

不燃材

調理機器

標準80cm以上

)作業は2人以上で

おこなうこと

重さがあります

● レンジフードの取り付

落下によりけがをする

おこなうこと

おそれがあります

けは、十分強度のある

ところを選んで確実に

取り付け上のお願い

● 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定 に従って法的有資格者がおこなう必要があります。 ・大工工事【設置のための下地工事等】 ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コ ネクター利用以外の配線接続等】 ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからの

ダクト接続等】 流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、 「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別し ておこなってください。

● ダクトの不燃処理について

・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材 料で被覆してください。 ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術」 指導書」・「検査要領書」に従ってください。

● 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをこ 使用ください。 調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出

して設置しないでください。排気効率が低下しま

● 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップ またはパイプフードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。

防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する ● レンジフード下部には、湯沸器 場合がありますので使用しないでください。

● 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲 したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、 騒音が大きくなりますので使用しないでください。 ● レンジフードは調理機器の真上に取 り付けてください。

レンジフード 取付説明書

なお、レンジフード取付高さは、レ 80㎝以上 ンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてくださ ● ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてくださ

い(目安:1/100 ~ 1/50 程度)。雨水の浸入や結露 ● 寒い地域ではダクトが結露し、レンジフード内に結露 水の逆流の原因になります。 ● レンジフード取付面の補強部に、取付用座付ねじが確 実に届くことを確認してください。本体の取付用座 付ねじは 45mm の長さのものが同梱されております

が、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石 補強部に届くことを確認してください。 また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用 してください。

● レンジフードの排気ダクトは他の排気ダクトと併用し ないでください。

を絶対に取り付けないでくださ い。また、横方向 50cm 以上離 ൃ **50cm** 以上 して取り付けてください。湯沸 器の真上は高熱になるため故障 の原因になります。

● 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください ● 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませ んので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併

用していただければ、よりすぐれた換気ができます。 ● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度 の空気取入口を設けてください。

水が流れる場合がありますので、断熱材を巻くなどの 対応をしてください。 ● 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも 建物の気密性によって給気が必要となる場合がありま

す。その場合は別途空気取入口を設けてください。

塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。 ● 風量おまかせ運転(風量自動切替)機能を正しくお使

いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定 をおこなってください。

<u></u> 警告

● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理 改造をしないこと

分解・修理・ 発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります 改造禁止 ● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと 漏電した場合、発火するおそれがあります 埋込禁止

排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令) および消防法などの関連法規に従って法的有資格 者が工事をおこなうこと 取付注意 火災などの原因になります

● レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との 間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して 可燃物を覆うこと 火災などの原因になります

詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください ● レンジフードは、薄板の金属部 (壁内ラス網など) と接触しないよう取り付けること

漏電した場合、発火するおそれがあります 取付注意 ● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを 設けること 火災・故障の原因になります

⚠ 注 意

● 周囲温度が 40℃以上になるところには 取り付けないこと

取り付け前の調査と準備

取付禁止

接触禁止

手袋をする

取付禁止 火災・故障の原因になります ● 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋 をすること 手袋をする 鋼板の切り口や角でけがをするおそれが

あります

● レンジフードの取り付けは、 十分強度のあるところを選ん で確実におこなうこと 落下によりけがをするおそれがあり

取付面の強度確認 製品を支える強さが必要です。

36kg ■板張りの場合(取付面は必ず不燃処理をおこなってください) ●板厚が20mm未満の場合には壁に補強板を埋め込み、 補強板にレンジフードを取り付けてください。

●板厚が 20mm 以上の場合は補強板の必要はありません。

■コンクリート、タイル壁の場合

●あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラ グ等を使用し固定してください。

■土壁の場合

●柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでく ださい。

別売部品の準備 排気工事に応じた別売部品の準備が事前 に必要です。 レンジフード

標準取付寸法

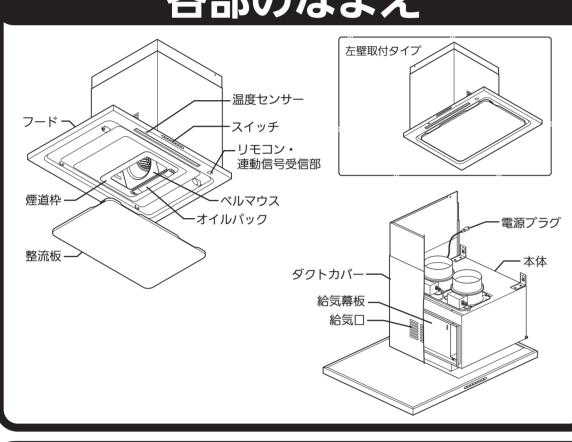
本製品の標準取付寸法は、調理機器 の上面からレンジフードの下端まで 80cm 以上です。 ※火災予防条例では、グリスフィルター の下端が調理機器の真上 80cm 以上 必要となっています。

電源コンセント・ブレーカー 電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してくだ さい。(交流・単相 100V) コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V を

ご使用ください。

必ずアース工事(D 種接地工事)をしてください。レンジ フードが誤作動することがあります。

各部のなまえ



製品寸法図 〔左壁取付タイプ〕 〔右壁取付タイプ〕 電源プラグ:機外長1m だるま穴 (本体取付穴)詳細 2-φ6穴(左右2ヶ所) ダクトカバー吊り金具取付穴/ 本体取付穴 65, 122 給気口 /上方給気の場合 後方給気・排気の場合

(3)

座付ねじ(φ 5.1 × 45) 10 本 吊り金具の取り付けに使います。 化粧ねじ (M4×8) 2本 ダクトカバー内側スライド部の固定 に使います。

製品質量

ダクトカバーの取り付けに使います。 給気口(電動シャッター付)1個 本体と給気ダクトの接続に使います。 排気口(電動シャッター付)1個

ソフトテープ 2本 給気口および排気口とダクトとの すきまをふさぐのに使います。



本体取付栈 1個 本体の取り付けに使います。

ダクトカバー 1個 ダクト取付部をカバーします。

ダクトカバー吊り金具 2個 ダクトカバーの取り付けに使います。

中継コード (排気用 2P・給気用 3P) 各1本 本体と電動シャッター(給気口・排気 □)の接続に使います。

1. 付属品の確認

● 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること 鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります 手袋をする

付属品を確認します。 梱包箱からダクトカバー、排気口、給気口、ねじ等の付属品を取り出し、上項の付属品

一覧により不足がないか確認してください。

2. 給気・排気方向の決定

⚠ 警告

関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと

金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること

漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

不燃材料を使用して可燃物を覆うこと

詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

(浴室用換気扇をお使いください)

感電および故障の原因になります

火災・故障の原因になります

また、コンセントの位置を確認してください。

(「6. 電気配線」図6-1、6-2参照)

● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと

● 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの

● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に

● レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、

/ 注意

● 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと

製品寸法図を参照し、事前に管工事業者(法的有資格者)へ壁穴の開口を依頼

∮ φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上

部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。(コンクリート、タイル、土壁の

金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、

お願い

てください。

取付注意

取付注意

取付注意

使用禁止

取付禁止

してください。

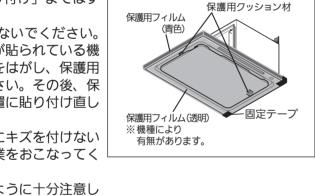
保護用のクッション材と固定テープはキズ、破損防 図 1 - 1 止のため、「7. ダクトカバーの取り付け」まではず

さないでください。(図 1 - 1) 保護用フィルム(青色)ははがさないでください。 ただし、保護用フィルム(透明)が貼られている機 種は一度保護用フィルム(青色)をはがし、保護用 フィルム(透明)をはがしてください。その後、保 護用フィルム(青色)をもとの位置に貼り付け直し

てください。(図 1 - 1) 床で作業する場合、本体および床にキズを付けない ため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってく 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意し

火災などの原因になります

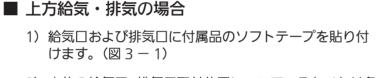
火災などの原因になります



3. 給気・排気用部品の準備

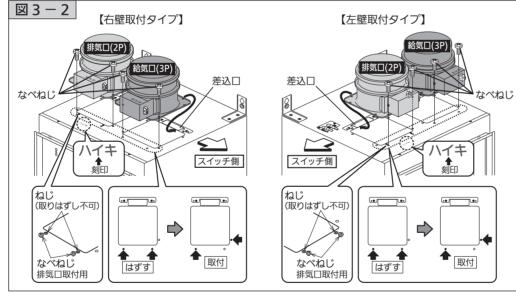
【 「1. 付属品の確認」の項で取り出した給気口および排気口を用意します。

お願い

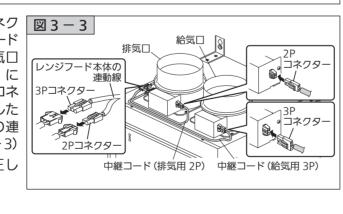


気口部には「ハイキ」の刻印があります。

※排気口取付位置近傍のねじは取りはずさないでください。 付属品の給気口・排気口にはそれぞれ「給気用」「排気用」の刻印があり、本体排



3) 給気口の接続部(3Pコネク 図3-3) ター)に付属品の中継コード (3P コネクター)を、排気口 レンジフード本体の の接続部 (2P コネクター) に 付属品の中継コード(2Pコネ | 3Pコネクター クター)をそれぞれ接続した あと、レンジフード本体の連 動線に接続します。(図3-3) 2Pコネクター ※中継コードの接続は正し くおこなってください。



お願い ・ コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

コネクターを 正しい差し込み方 誤った差し込み方 4) 余った配線は、付属品のワイ 図3-4 ヤークランプで結束します。 (図 3 - 4)

※ 後方排気の場合は別売のL形ダクトが必要です。

● レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところ

1) 給気口および排気口に付属品のソフトテープを貼 り付けます。 2) L形ダクトに付属の取付ねじ4本でモーターカバー

給気口・排気口を取り付け直してください。

が上側になるようにして取り付けます。(図3-5) ※ 本体への取り付けは、本体の取り付け後におこない ます。(「5. ダクトと給気・排気用部品の接続」参照)



(図5-3)

ついているなべねじ各2本をはず した後、L形ダクトを本体上部の 差込部に差し込みながら、給気口・ 排気口をダクトに挿入し、はずし たなべねじ2本で取り付けます。 ※排気口取付位置近傍のねじは 取りはずさないでください。 風漏れ防止のテーピング(アルミ) テープ)をおこないます。(図5-3)

(別売品) ❷ 給気□・排気□に中継コードを 図5-4 **り** 接続します。(図 5 - 4) 1) 給気□の接続部(3Pコネク ター)に付属品の中継コード (3Pコネクター)を、排気

> に付属品の中継コード(2P コネクター)をそれぞれ接続 したあと、レンジフード本体 の連動線に接続します。 ※中継コードの接続は正し くおこなってください。

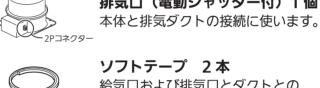
お願い

コネクター 中継コード(排気用 2P) 中継コード(給気用 3P)

誤った差し込み方

本体、本体取付桟およびダクトカバー

トラスねじ (M4×10) 2本



(単位:mm)

座付ねじ

 $(\phi 5.1 \times 45)$

本体取付桟

1 だるま穴に

引っ掛けて

2)本体取付栈(

引っ掛ける

本体取付桟

ドリリングタッピンねじ

(25mm以下のネジを

使用ください。)



だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図4-1) 製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各1ヶ所)に付属品の座付ね

▲ 付けます。

(図4-1)

製品寸法図と裏面

の型紙を参照し、

本体取付桟の取付

位置に付属品の座

付ねじ(o 5.1 ×

45) 2本で本体取

付桟を固定します。

② 本体を引っ掛けま

す。(図4-2)

本体のだるま穴を

座付ねじに引っ掛

けながら (**1**))

本体背面の溝を本

体取付桟に引っ掛

上方排気の場合は、

ダクトに給気・排 気口を差し込みな

がら本体を取り付

本体を固定します。(図 4 - 3)

2) だるま穴の座付ねじ(o 5.1 × 45)

に付属品の座付ねじ(φ 5.1 × 45) をしっかりと締め付けます((1))。

をしっかりと締め付けます((2))。

けてください。

けます (2)。

お願い

じ (ϕ 5.1 \times 45) を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。

図4-2

上方排気の場合

図4-3

 $(\phi 5.1 \times 45)$

図 5 一 1

図5-2

ドリリングタッピンねじ使用範囲

100~110mm

5. ダクトと給気・排気用部品の接続

だるま穴

本体取付栈

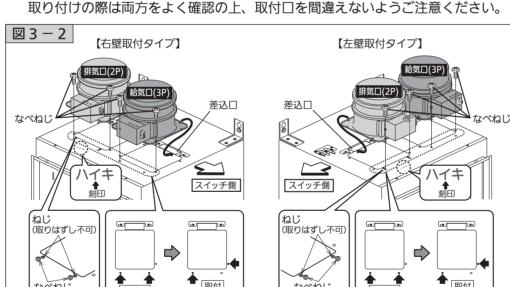
↑ 本体取付桟を取り 図4-1

取り付けかた

手動でシャッターを開閉すると故障の原因になりますの 図3-1 でおやめください。

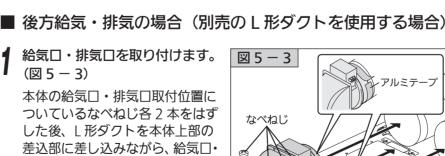


2) 本体の給気口・排気口取付位置についているなべねじ各2本をはずした後、 はずしたなべねじで給気口および排気口を取り付けます。(図 3 - 2)



お願い ドリリングタッピンねじなどで給気口・排 気口を固定する場合は、シャッターにねじ があたらないように図を参照してドリリン 接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因に グタッピンねじ使用範囲以内に固定してく ださい。(図5-1) ・ 給気口・排気口の取付位置が間違っている場合、配線が届かないことがあります。

> ■ 上方給気・排気の場合 ダクトと給気口・排気口の接続部に風 漏れ防止のテーピング(アルミテープ) をおこないます。(図5-2)



□の接続部(2P コネクター)

へねじ _(取りはずし不可) なべねじ L形ダクト レンジフード本体の | 2P | コネクター | 1

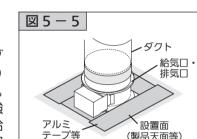
・ コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。接続が

不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。 給気口・排気口の取付位置が間違っている場合、配線が届かないことがあります。 給気口・ 排気口を取り付け直してください。



■ 給気口・排気口設置面の漏風確認のお願い (図5-5)

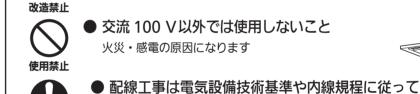
給気□・排気□とダクトを接続する際に、無理にダ クトに接続しようとすると、設置面(製品天面等) が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。 風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強 運転)をおこなってください。漏風する場合は、給 気口・排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現 場調達品)で漏風防止処置をおこなってください。



7 🔲

6. 電気配線

● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと 発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります 分解・修理・

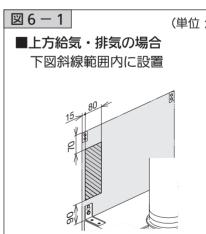


法的有資格者が工事をおこなうこと 誤った配線工事は感電や火災の原因になります 取付注意 ● アースを確実に取り付けること 故障や漏電のときに感電するおそれがあります アースの取り付けは販売店にご相談ください アースを

1)アース(D種接地工事)を取ります。 2) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

• 電源は専用のコンセント(2 極差込接続器 15 A、125V) およびブレーカーを設け

・「8. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。 ・ コンセントは電源コードの長さ、および下図に記載の条件を考慮し、設置してください。



取付位置を確認します。(図 7 - 1)

図 6 一 2 (単位:mm) ■後方給気・排気の場合 ダクトカバー外側、または天井面の 下図斜線範囲内に設置 コンセント設置範囲 (天井設置の場合) 7. ダクトカバーの取り付け

(単位:mm)

製品寸法図を参照し、ダクトカバー吊 り金具の取付位置を確認します。 ダクトカバー吊り金具を取り

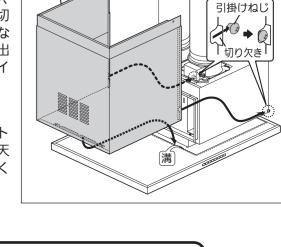
(単位:mm) ▲ 付けます。(図7-2) ダクトカバー吊り金具を図の ように付属品の座付ねじ(φ ダクトカバー 吊り金具 5.1×45)4本で取り付けます。 ※レンジフードのセンターに 合わせて注意しながら取り (φ5.1×45) 付けてください。 本体 **3** ダクトカバーを取り付けます。 図7-3

(図7-3) ダクトカバーを壁際まで持っていき、 本体の引掛けねじにダクトカバーの切 り欠きを入れるようにスライドさせな がら、ダクトカバー正面下端の飛び出 し部をフードの溝に入れ、奥にスライ ドさせながら、はめ込みます。

お願い

ださい。

ダクトカバーを取り付ける際、ダクト カバー下端の飛び出し部でフードの天 板を傷つけないように十分注意してく



取り付けかたは裏面に続きます。

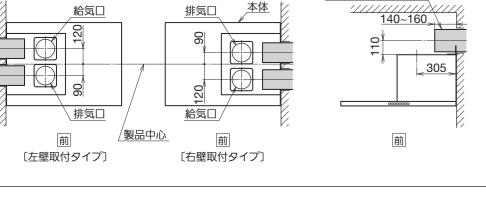
■上方給気・排気の場合

場合) (図2-1)

図2-1

<u>305</u> ∖排気□ 給気口/ 〔左壁取付タイプ〕 〔右壁取付タイプ〕 ■後方給気・排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合) 後方給気・排気ダクト

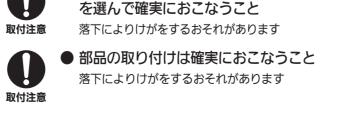
給気口 上方給気・排気ダクト』



■ 後方給気・排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)

(単位:mm)

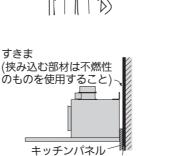
4. 本体の取り付け



● 作業は 2 人以上でおこなうこと レンジフードは約 36kg の重さがあります お願い

取付注意

・レンジフードの前後および左右方向の水平を確実にだして ください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油) が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。 ・キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れ込 んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込 む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用 した場合、火災の原因になるおそれがあります。



不燃材

